

(6) 精神障害をもつ人々の多様なニーズに対する支援に関する先行研究の検討

川崎医療福祉大学医療福祉学部医療福祉学科 ○宮宇地雄介, 長崎 和則

【背景と目的】

今日の地域精神保健福祉福祉に関する制度や福祉サービスの充実、サービス利用者の地域生活を維持やより豊かなものにするために貢献している。しかし、支援者は、福祉サービスのメニューにあるサービスを選んで提供すればよいということではなく、かかわりのなかで当事者の求める多様なニーズをキャッチし、柔軟に対応することが求められている。しかし、柔軟な支援のための支援者の工夫や対応のありようを明らかにすることは、支援の質的な評価において重要な論点と考えられるが、積極的に評価されてきていない。そこで本研究は、地域で生活する精神障害者に対する支援実践におけるニーズへの対応の現状と課題という観点から先行研究を検討し、求められる研究課題を明らかにする。

【方法】

精神保健福祉実践における支援の柔軟性について考察するために、先行研究をレビューした。CiNiiで「地域」「精神保健福祉」「ニーズ」を検索ワードとして検索した。さらに、ヒットしたものの中から、本研究の関心である情緒的なニーズが表現される「苦悩」を検索用語に追加し、精査した56件を先行研究の対象とした。さらに、対象とした文献の引用文献や参考文献に基づき、必要となる文献を6件追加し、最終的に62件をレビューした。

【結果と考察】

先行研究をレビューし整理した結果、次の3つに整理された。

ひとつ目は、病いの経験と語りへの視座に関する研究である。医療従事者による「疾患」への見立て

をひとつの解釈とし、一方で、本人が「病い」をどのように経験しているかの視点が重視されるようになり、「病い」の経験を当事者へのインタビューを通して病いとどのように経験しているかを分析した研究がみられる。ふたつ目は、苦悩への着目と精神保健へのシフトへの着目である。ここに分類された研究では、イタリアにおいて、精神障害者らとの弁証法的対話から、病気ではなく「生きる苦悩」への着目したこと、また、専門家自身の専門性の認識の変容があったことが、今日の地域精神保健福祉システムの構築の要因としている。3つ目に、地域精神保健福祉実践における支援者と当事者の関係性についての研究である。特に、ソーシャルワーカー（PSW）の専門性と精神障害者との関係性に着目した研究がみられ、関係性をマニュアル化できない関係性こそがPSWの専門職としての関係性に注目した研究がみられた。他には、日本の地域精神医療や保健福祉実践の現場をフィールドワークし、そこでは専門知の枠組みを支援者自らが壊し、新たな実践に昇華していく取り組みや、専門家を含めた社会の側が、既存の医療の枠組みを超えていく実践を捉えている。

以上をふまえると、精神障害をもつ人々の思いを受けとめてほしいという当事者主体のニーズと、それに応える支援関係に着目し調査した研究は、十分な蓄積があるとはいえない。サービス利用者の幅広いニーズ充足のためには、目の前の精神障害者の思いを受けとめ、そのニーズに応えることのできる支援を考察する研究が必要であると考えられる。